

南仏事件情報（2016年8月）

（1）テロ関連

- 国内情報総局からの通報で過激化イスラム教徒が逮捕（ブーシュ・デュ・ローヌ（BdR）県）

9日、マルセイユ市2区で、29歳の男性が、過激化したイスラム教徒でテロ行為を賞賛し教唆した罪で、当局から逮捕された。この日から数日前、DGS1（国内情報総局）がマルセイユの検事局に対して、本容疑者に関する通報がなされた。容疑者は、マルセイユ市2区の施設に居住しており、図書館に通ってはシリアやイラクの紛争やイスラム過激派のユニフォームの販売サイト、イスラム国のサイトなどを閲覧しており、また施設の同居者に対しても「いつかイスラム国に行く。」と語っていたとのこと。同人が所持した携帯電話からは、イスラム国による斬首の映像やフランスでのテロの映像が保存されていた。

- ニースの若者が懲役3年（アルプ・マリタイム県）

19日、ニース裁判所は、19歳のニース在住のイスラム改宗者の男性に対し、テロ行為教唆及び公共のネット場にテロを称揚する画像などを流通させた罪で、3年の懲役刑に処すると言い渡した。同被告は、ダーイシュの斬首などの残虐な行為が掲載されているウェブページに頻繁にアクセスし、また偽物の銃器を所有していた。当局が被告を監視下に入れたのは2015年9月で、12月には自宅に家宅捜索が行われた。7月上旬、情報当局からニースの検事に対して、被告が国内のテロ容疑者と接触している旨の通報がなされ、17日に逮捕されるに至った。

- テロ称賛（エロー県）

31日、モンペリエ裁判所は、テロ称賛の罪で男性を懲役5年、10年間の市民権剥奪の判決を言い渡した。被告は、ツイッターやフェイスブックで、ダーイシュの斬首映像を繰り返し共有していた。また、昨年11月13日と同15日には、モンペリエ市とベルギーのモーレンベーク市を車で往復しており、パリ同時多発テロへの関与が疑われていたが、結局起訴はされず、同月19日に、10ヶ月に及ぶテロ称賛の罪で逮捕されていた。

（2）殺人、強盗等

○ 血の日曜日（B d R 県）

7日10時ごろ、マルセイユ市4区で、銃撃事件が発生し2人が銃弾に倒れた。現場はプラタナス並木の大通りで、19歳と21歳の男性が、車に乗った状態でカラシニコフの銃弾を浴びた。被疑者は4人の黒づくめの男で、車に乗って現れた。車で道を塞がれた被害者は、車から降りて逃走しようとしたが、背中に銃弾を浴びて地面に倒れた。両者とも、10数発の銃弾を受けた。

○ 口論が高じ殺人事件に（ガール県）

14日20時ごろ、ニーム市で、2人の男性が口論の末殺人事件を起こすに至った。2人は、当初付近のアパートの中で口論をしていたらしいが、やがて表に出て争いを続けた。最終的に、一方が相手に対してゴム銃を発射した。撃たれた男性は病院に搬送されたが、後日死亡した。死因は明らかにされていない。

○ マルセイユで復讐劇（B d R 県）

15日23:30ごろ、マルセイユ市9区の特別警戒区に指定されているシテにて、56歳の男性が銃撃されて死亡した。現場は被害者の自宅の前で、路上にはけん銃の薬きょう11発が残されており、弾丸は被害者の頭部と胴体に命中していた。捜査員によると、被害者はマルセイユの強盗団の一員だったとのこと。

○ ゲームバーでの謎の死（アルプ・マリティム県）

21日10時ごろ、ニース市中心部にあるゲームバー店内で、22歳の男性が殺害された。通報を受けた警察官が現場に到着したところ、男性が胸に包丁を刺された状態で床に倒れているのを発見した。その前夜から、同バーではプライベートパーティが行われており、店内には各種禁止薬物が放置されていた。現場には、22～32歳の男性3人と女性1人がいたことから、警察がそれぞれに対して取り調べを実施している。

○ 夏の終わりの殺人（B d R 県）

26日12:00ごろ、マルセイユ市12区で、40歳のマルセイユ人男性が、バイクの運転中に銃撃を受けて死亡した。現場には26発の薬きょうが遺留されており、被害者の頭と胸、バイクに弾痕が見つかった。

○ 刺青師が襲撃され死亡（B d R 県）

31日19:30ごろ、マルセイユ市13区と14区間の住宅地で、40歳の男性が、銃撃を受けて死亡した。男性は4区で刺青店を営業しており、自宅前でバイクを降りたところを襲撃された。現場には被害者の16歳になる息子がおり、一部始終を目撃していた。被疑者は逃走中。

(2) その他

○ 200人の難民がマントンに流入（アルプ・マリタイム県）

5日17時30分ごろ、マントン市に、難民約200人がイタリアとの国境を越えて流入した。イタリア国内の赤十字難民施設に收容されていた難民たちは、待遇の悪さに腹を立て、4日深夜に施設を抜け出してフランス国境に向かった。難民たちは、国境においてイタリア憲兵隊と終日対峙していたが、波打ち際の岩場を突破して次々にフランス国境に強行流入した。その後、難民たちの多くはガラヴァン港まで辿り着いたが、行き場所をなくし、結局約150人がバスでイタリアに送り返された。その他、市内中心部で約50人が收容され、4人が拘束された。

○ ネックレスのひったくり犯が逮捕される（B d R 県）

8月中、ネックレスのひったくり犯が急増した。8月の第1・2週中だけで少なくとも41件の被害届け出があった（前年同期16件）。本年1月から8月11日までの被害届出件数は220件で、昨年より46件増加している。発生は市内中心部に集中しており、人気のない通りで多く発生している。犯行は、未成年者が貴金属のネックレスをつけた人に静かに近づき、ネックレスをもぎ取って素早くそばで待機している仲間が運転するスクーターに飛び乗って逃走するというものが典型的。これらの犯行の裏には、強奪品を売りさばくネットワークを持つ組織化された集団があると見られている。当局は警戒を強化し、11人を逮捕した。

○ 7月中に約1,000件の車上荒らし（ガール県等）

憲兵隊は、7月中、ラングドック・ルシヨン地方で982件の車上荒らし被害が申告されたと発表した。前年比14%増となった。県別に見ると、ガール県225件、ロゼール県18件、オード県140件、エロ一県367件、ピレネー・オリアンタル県230件。1～7月までに4,830件（+12.6%）の窃盗被害が申告されている。

- 2人の少女への強姦容疑でオランダ人を逮捕（アルプ・マリティム県）
4日、ニース市で、40歳代のオランダ人が未成年者に対する強姦容疑で逮捕された。被害者は8歳と10歳の少女で、2人でプロムナード・デ・ザングレ海岸にいたところを被疑者から声をかけられ、アイスクリームを食べさせて信用をさせた。警察は、他にも被害者がいないかどうか捜査している。

- コルシカでのマグレブ系住民を巻き込んだ乱闘（オート・コルス県）
13日、バスティア市北部のシスコ村の海岸で、マグレブ系住民と島民との間での諍いが転じて乱闘となり、5人が負傷して車3台が放火された。最終的に、警察官と憲兵隊約100人が出動して事態を收拾した。騒動は、浜辺に来ていたマグレブ系住民が、同伴者女性の写真を海水浴客が撮ったと抗議したことに端を発したと見られている。翌14日、バスティア市の県庁前に住民約500人が結集して抗議の集会を行った。

- ロマ人キャンプに対する襲撃で未成年者2人が逮捕（B d R県）
16日深夜、マルセイユ市15区で、ロマ人のキャンプに対して、砲弾や火炎瓶や散弾銃、サーベルなどによる攻撃が行われた。この攻撃で、7人のロマ人が病院に搬送された。翌17日深夜、18歳と19歳の未成年者が逮捕された。同地区においては、今年2月からロマ人約160人による占拠状態が続いており、マルセイユ市で最大規模だといわれている。

- カンヌ港で男が暴れ11人がケガ（アルプ・マリティム県）
21日23時ごろ、カンヌ市の港に停泊していた船の中で、42歳の男が船の住人に対して暴力を振るい、11人がケガをした。騒動は、日中のクルーズを終え、カンヌ市中心部のレストランでの夕食を終えた一行がふたたび船に戻ったとき、1人の男と一緒に乗船し、「アラーアクバル」と叫びながら人々に襲いかかり、殴ったり海に投げ落としたりしたもの。最終的に、襲撃者は駆けつけた警察官や憲兵隊に制圧され、病院に搬送された。男は住居不定の42歳で、酒も薬物もやっていなかったが、フランス語とアラビア語のコーランを持っていた。関係者によると、ごく最近改宗した模様。また、男は数日前、アンティープ市で、母親と隣人を斧で襲撃したことで逮捕されていた。

○ プラン・ドウ・カンパーニュで誘拐、ディジョンで解放（B
d R 県）

26日15時ごろ、あるマルセイユの男性の携帯電話に、「息子を誘拐した。息子がギャンブルでため込んだ借金6,000ユーロを彼のウェスタン・バンクの口座に振り込め」という脅迫電話がかかってきた。同男性の21歳の息子の車は、プラン・ドウ・カンパーニュの駐車場に放置されていた。父親は、身代金を払うより警察に通報することを選択し、その数時間後、捜査にあっていた警察はディジョンで息子を発見解放することに成功した。2組のカップルからなる4人の被疑者は、現在拘束されて取調べを受けている。犯人グループの女が、男性を誘惑して誘拐したものと考えられている。

○ トゥールーズで心神喪失者が警察官を襲撃（オート・ガロ
ンヌ県）

30日午後、トゥールーズ市の中央警察署で、31歳のアルジェリア出身の男が警察官を襲撃した。男は、携帯電話の盗難届けのために来署していたが、出入口で手荷物検査をしていた警察官に対し、包丁を取り出して襲いかかった。取り押さえられてからも、フランスに対する侮辱の言葉を叫び続けた。被疑者は、以前から精神病院にかかりつけており、2013年には同じ警察署の壁に落書きをし、その翌年にはデモ中に機動隊とシナゴークに火炎瓶を投げつけた経歴がある。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報をもとにまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。